

① 鳥や自然について知ろう (手を出す前に)



② ヒナを助けるには

<ヒナがすぐに巣立つわけ>

自然界での命の原則は、他の生物の食物になること。野鳥の世界も毎日命がけですが、わずかでも生きのびれば1年で大人になって子育てを始め、毎年繰り返します。つまり、生き残る方が少ないので、たくさんの卵を産み、短期間でヒナを巣立たせなければなりません。

スズメでは5個くらい卵を生み、かえったヒナは約2週間で巣立ち、その後1週間くらいを親子で過ごしてからひとり立ちし、親鳥はまた卵を産むというサイクルを、春から夏にかけて繰り返すようです。なお、巣立ちまでの期間は、メジロやヒヨドリでは10日ほどしかなく、シジュウカラ・ツバメ・ムクドリなどは3週間ほどかかるものもあります。

<ヒナの成長を支える虫>

鳥も私たち人間と同じで、他の命を食べなくては生きていけません。特に鳥は、活動的に空を飛ぶために体重を増やせないの、食べてはすぐにフンを出すことを繰り返します。体重15グラムほどのシジュウカラでも、1年間に必要な虫は10万匹を超えるという試算もあるほどです。

秋冬に虫が少なくなると、木の実などの植物質も食べるようになる小鳥も少なくありません。でも、子育てには高栄養で消化しやすい虫が必要なので、虫が多い春から夏を子育てシーズンとするのが普通です。スズメでさえも、ヒナを巣立たせる2週間に親鳥が虫を運ぶ回数は、4千回を超えるといわれています。

<自然の仕組みから学ぼう>

虫に食べられる植物にとっては、虫を食べる小鳥が必要です。でも、小鳥が虫を食べつくすことはありません。それは、小鳥が増えすぎないからです。毎年子育てをくり返して、ヒナが無事に巣立ったとしても、自立、移動、越冬などの試練が続くので生きのびるのはわずか。一方で、そうして弱ったり死んだ鳥が食物となって、肉食性や雑食性の鳥などの命を支えているのです。

命の大切さは、このようにさまざまな生物の共存と命のつながりとともに再認識されなくてはならない時代になりました。2005年から国連「持続可能な開発のための教育の10年」がスタートし、持続可能な社会を作ることには人類共通、最大の命題となっていますが、持続可能な自然のしくみから学ぶべきことが少なくありません。

<誰にでもできること>

野生の命を助けることは専門家でも難しいものですが、虫を殺さない、虫が食べる植物を残すなど、誰でも小鳥のためにできることがあります。もし、羽がそろっていないようなヒナが落ちていた場合は、巣立ち前に巣から落ちたのかも知れません。近くに巣があるはずなので、そこに戻してやることで助けられる可能性があります。ただし、ヒナにさわるときの場合は、手袋をするなどして安全や衛生に気をつけましょう(親鳥が匂いを気にすることはあまりないと考えられます)。

<手を出す場合/救護するには>

ヒナが明らかにけがや病気だったり、自然が豊かな地域では数少ない希少種のヒナが落ちている可能性もあります。放っておけないと判断できる場合は、各都道府県の鳥獣保護担当部署に相談して指示をあおぐようにしてください。なお、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)」によって、保護のために飼育する場合にも許可が必要です。

行政のアドバイスによって、野鳥の救護や保護飼育に取り組んでいる施設に持ち込めば対応してくれることもあります。ただ、野鳥の保護飼育や自然に帰すための知識や技術はまだ確立されているとはいえません。もともとヒナの生存率は低いので助けるには大変な労力を要し、人に慣れてしまい自然に戻せなくなる鳥もいることや、施設についてもボランティアで運営されている場合も多く、すべてを受け入れることはできないことも知っておきましょう。また、ドバトやカラスなど増えすぎて問題とされる鳥、外来種などは対応してもらえないこともあります。

<自分で一時的に助けようとする場合に参考になるもの>

BOOK 『野鳥をたすけるはじめての一步
(身近な野鳥の救護・保護のためのハンドブック)』
野生動物救護獣医師協会発行 ¥1,500(税込)

ホームページ すずめっ子クラブ
http://www.asterisk-web.com/sparrow_club/
特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会
<http://www.wrvj.org/>
(財)日本鳥類保護連盟 <http://www.jspb.org/hina/hina.html>
(財)日本野鳥の会 <http://www.wbsj.org/>
(ここからポスターのダウンロードもできます)

シジュウカラの「巣立ち前のヒナ」と「巣立ち直後のヒナ」



このポスターを目立つ所に貼ってください!

野生動物救護獣医師協会(WRV)とは…

WRVは、1991年に創立し、獣医師を中心とする専門知識を持った行動力のある団体として、日頃から野生動物の救護活動を行っています。救護動物を通じて環境の異変にいち早く気付くことのできる立場を活かし、将来への不安を少しでも取り除き、人と動物と自然とが調和のとれた豊かな環境づくりのために貢献しようと考えております。同時に、傷病野生鳥獣の救護の実践を通じて、人々の動物愛護の精神に応えるとともに、一人でも多くの方々に野生動物の生態や自然保護の大切さを知っていただけるよう、今後も積極的に普及・啓発活動を展開してまいります。

会員を募集しています

WRVでは、いつでも会員を募集しております。会員については以下のように分類しております。

- ・正会員……………臨床獣医師の方を対象としております。年会費：8000円
- ・ボランティア会員…どなたでも会員になれます。年会費：3000円
- ・賛助会員……………本会の活動を資金面からご支援いただきます。年会費：10000円

なお、入会金は頂いておりません。詳しくは下記事務局までお問合せください。折返し入会のご案内等をお送りいたします。



特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会
(WRV: WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION)

〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302 TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556 <http://www.wrvj.org/> E-mail: kyugo@wrvj.org